

国 の 施 策 等 に 関 す る 提 案 ・ 要 望 書

(平成25年1月)

鳥取県自治体代表者会議 鳥取県地方分権推進連盟

治夫功克操雄
伸都憲
井藤内下川
平伊竹松石西
事長長長長長
知議會議會長會
知議會議會長會
會長議村議會
縣議市議町議會
縣議市議町議會
取縣市縣町村
鳥鳥鳥鳥鳥鳥鳥

＜ 目 次 ＞

(ページ)

1 地域の実情を踏まえた平成24年度補正予算の編成について【企画部ほか】	1
2 国民の生命と財産を守る「国土強靭化施策」の強力な推進について【県土整備部】	2
3 北東アジアゲートウェイ「境港」の重点整備について【県土整備部】	10
4 日本海国土軸を形成する整備新幹線など高速鉄道網の整備について【企画部】	13
5 経済の再生と成長、雇用の回復と創造に向けた提案について【商工労働部】	14
(1) 緊急経済・雇用対策	
①経済・雇用対策特別交付金（仮称）の創設	14
(2) 成長分野への取組強化	
①地域経済の産業構造の転換に向けた先進的技術を有する 地方発ベンチャー企業の支援	15
②次世代抗体医薬品（バイオ医薬品）の研究開発機能の整備	16
(3) 人材育成の強化	
①産業構造改革と一体となった雇用創造戦略への支援	17
②職業能力開発校の産業人材育成拠点への拡充	18
6 「国のかたち」の検討について【企画部】	19
7 地方分権改革の推進と地方税財政の充実・強化について【総務部・企画部】	20
8 社会保障と税の一体改革について【総務部・企画部・福祉保健部】	23
9 環太平洋経済連携協定（TPP）交渉参加検討について 【未来づくり推進局・農林水産部】	25
10 北朝鮮当局による拉致問題の完全解決について【総務部】	26
11 周辺地域の意見に基づいた原子力発電所の運用について 【危機管理局・生活環境部】	27
12 原子力発電所における防災対策の強化について【危機管理局・福祉保健部】	29
13 大規模災害時等における対応能力の向上について【危機管理局】	30
14 学校施設の耐震化の促進及び防災機能の向上について 【教育委員会・企画部・福祉保健部】	31
15 農業関連予算の確保・拡充について【農林水産部】	32
16 「日本型直接支払」など農業関連施策の制度確立について【農林水産部】	33

17	森林・林業関連予算の確保・拡充について【農林水産部】	35
18	森林・林業の再生に向けた制度の見直しについて【農林水産部】	36
19	日韓暫定水域及び我が国排他的経済水域における漁業秩序の確立 並びに新日韓漁業協定関連基金の創設について【農林水産部】	37
20	境漁港における高度衛生管理型市場の整備について【農林水産部】	38
21	持続可能な電源構成のベストミックスの確立に向けた取組について【生活環境部】	39
22	再生可能エネルギー〔太陽光〕固定価格買取制度について【鳥取県市長会】	40
23	使用済小型電子機器等の再資源化の推進と輸出確認について【生活環境部】	41
24	障害者総合支援法の円滑な施行について【福祉保健部】	42
25	妊婦健康診査助成事業に対する公費負担の継続・恒久化について【福祉保健部】	43
26	生活保護制度の見直しについて【福祉保健部】	44
27	幼児教育の無償化について【福祉保健部】	45
28	保育士等の待遇改善・配置基準の改善による幼児教育・保育の質の向上について 【福祉保健部】	46
29	被虐待児やひとり親家庭の自立に向けての取組の充実について【福祉保健部】	47
30	ソフトパワーの活用による地域振興の取組支援について【文化観光局】	48
31	ジオパーク活動の取組への支援等について【文化観光局・生活環境部】	49
32	エコツーリズム推進に関する支援について【文化観光局】	51
33	中山間地における生活交通の確保について【企画部】	52
34	鳥取港における円滑な通関手続について【鳥取県市長会】	53
35	給付型奨学金の創設について【教育委員会】	54
36	少人数学級の制度化について【教育委員会】	55
37	義務教育費国庫負担金の充実について【教育委員会】	56
38	特別支援教育の充実について【教育委員会】	57
39	簡易水道統合後の簡易水道施設についての国庫補助金交付要綱改正及び 統合後の不採算経費に対する財政支援について【鳥取県市長会】	58
40	ライフライン機能強化等事業における交付基準の緩和について【鳥取県市長会】	59

1 地域の実情を踏まえた平成24年度補正予算の編成について

《提案・要望の内容》

○地域経済の回復なくして日本経済の再生はないことから、平成24年度補正予算においては、地域の実情を踏まえ、地域経済活性化のための効果的な施策を積極的に講じること。また、これらの施策が短期間に円滑に行われるためには、地域の実情に応じた柔軟な執行が必要であることから、交付金や新たな基金の創設など、地方の自主性と地方財源の確保に配慮すること。

【地域経済・雇用対策】

- ・地域での雇用確保や生活・就労一体支援等のため、雇用対策の上乗せ等を地域の実情に応じて柔軟かつ迅速に進めることができるよう、地方の自主性を活かした交付金や基金制度を創設すること。
- ・円高や固定費の高騰に苦しむ中小企業の経営支援や金融支援の充実を図ること。

【地方の実情を踏まえた分野への投資・配分】

- ・東日本大震災を踏まえ、国民の生命・財産を守り、機能する国家を形づくるため、効果的な公共事業の実施や老朽インフラの再生等をはじめ、防災・減災対策を強化・加速すること。特に、対応が急がれている病院や学校、社会福祉施設等の耐震化の推進、空き家対策などのための予算を重点的に確保すること。
- ・原子力発電所の運用に関し、従来の制度にとらわれず、新たに関係周辺都道府県となる府県に必要な原子力防災資機材(ホールボディーカウンターや防護服、放射線測定器等)の緊急整備を行うこと。
- ・グリーンニューディール基金事業の前倒し実施など地方が取り組む再生可能エネルギー導入促進事業のための予算を重点的に確保すること。
- ・そのほか、資源確保等のエネルギー・環境分野、高度医療、高齢者への介護サービスなどの社会保障サービス分野、食・農業の六次産業化やインバウンド観光の促進等、今後の成長分野について積極的に投資を行うこと。

【地方財源の確保】

- ・補正予算に伴う地方負担は、平成21年度創設の「地域活性化・公共投資臨時交付金」等を参考に、地方の自主的な取組を支援する新たな交付金の創設など、地方の円滑な事業実施を可能とする仕組みとすること。

2 国民の生命と財産を守る「国土強靭化施策」の 強力な推進について

《提案・要望の内容》

1 高速道路ネットワークの整備による複数国土軸の形成

○南海トラフ巨大地震をはじめとする今後の大規模災害において国民の生命と財産を守る強靭な国土を構築するためには、日本海国土軸をはじめとする国土軸の複数化と地域間ネットワークの確立が不可欠である。については、依然としてミッシングリンクが存在する本県高速道路ネットワークの1日も早い連結を図ること。また、それを実施するために必要な道路予算の総額を確保すること。

【1日も早いミッシングリンクの解消に向けた整備促進】

- 平成25年度供用予定箇所の確実な供用
 - ・『山陰道（鳥取IC～鳥取空港IC）（赤崎中山IC～名和IC）』
 - ・『鳥取豊岡宮津自動車道「駒馳山バイパス」』
- 『山陰道』県内全線の早期供用
 - ・『山陰道「鳥取西道路」』の整備促進
 - ・『山陰道「北条道路」』の早期事業再開
- 地域高規格道路の整備促進
 - ・『鳥取豊岡宮津自動車道』『北条湯原道路』『江府三次道路』

【残るミッシングリンクの解消に向けた検討への着手】

- ・『鳥取豊岡宮津自動車道』（山陰道～鳥取市福部町）
- ・米子市～境港

【暫定2車線区間における安全性・走行性の確保】

- ・『米子自動車道』及び『米子道路』の4車線化
- ・『鳥取自動車道』における付加追越車線の追加

2 大規模地震・津波に対する総合的な防災対策の推進

東日本大震災の教訓から公共交通インフラ等の耐震化、避難路の整備、遡上する津波に対する海岸堤防や河川堤防の整備などの総合的な防災対策が急務である。

については、

- 復旧・復興物資等を輸送する緊急輸送道路の落石対策や橋梁の耐震補強、避難道路の機能確保対策など大規模地震・津波対策に要する予算を確保すること。
 - ・橋梁の耐震補強：国道431号境水道大橋など
 - ・避難道路の液状化の調査と対策：国道431号
- 日本海側の地方公共団体が実効性のある津波防災対策を実施できるよう、国において平成24年度に設定される日本海側の地震諸元を早期に取りまとめるとともに、今後、地方公共団体が津波浸水想定を設定するに当たり、国は蓄積した知見に基づき情報提供や技術的支援を行うこと。

3 地球規模の気候変動に対応した治水対策の重点的な推進

平成23年には台風12号によって紀伊半島で、平成24年には梅雨前線によって九州北部で、観測史上記録的な豪雨が発生するなど、近年全国的に甚大な被害が発生している。

鳥取県内においても、平成23年の台風12号によって堤防の決壊、約170棟の床上・床下浸水や集落の孤立が発生した。また、近年頻発するゲリラ豪雨などによって土石流が発生しているが、防災対策が行われていない要援護者施設が残されているほか、波浪による海岸侵食によって人家密集地や国道が危険にさらされているなど治水対策も喫緊の課題である。

については、

- 国民の生命と財産を守るため、流下能力向上等の河川改修、土砂災害を防止する砂防事業等の防災対策予算を確保すること。

【河川事業】日野川〔直轄〕(青木箇所)：浸水常襲地における流下能力向上
大路川〔交付金〕：都市部貫流河川の治水安全度向上(堤防腹付け)

【砂防事業】深谷川〔交付金〕：災害時要援護者施設の土砂災害防止

【海岸事業】皆生海岸〔直轄〕：老朽施設の改良(皆生工区)、
未整備施設の着手(両三柳工区)

4 国民が安心して生活できる社会基盤の整備

(1) 老朽化インフラに対する財政支援措置の拡充

昨年の12月に発生した中央自動車道・笹子トンネル事故は、社会資本の老朽化対策が我が国が抱える喫緊の課題であることを改めて示した。

鳥取県では、橋梁などの県管理施設において長寿命化計画を策定し、施設の安全確保と維持管理費のコスト縮減に努めているが、老朽化の目安とされる建設後50年が経過する道路橋が、今後20年間で12%から54%に急増するなど、社会資本の維持管理に要する費用は今後大幅に増大する見込みである。

については、

- 国民の生命と財産を守る国土強靭化を推進するため、今後急速に老朽化する橋梁等の道路施設、河川管理施設、港湾施設等の計画的な維持管理、更新に必要な予算を確保すること。

(2) 通学路の安全対策の推進

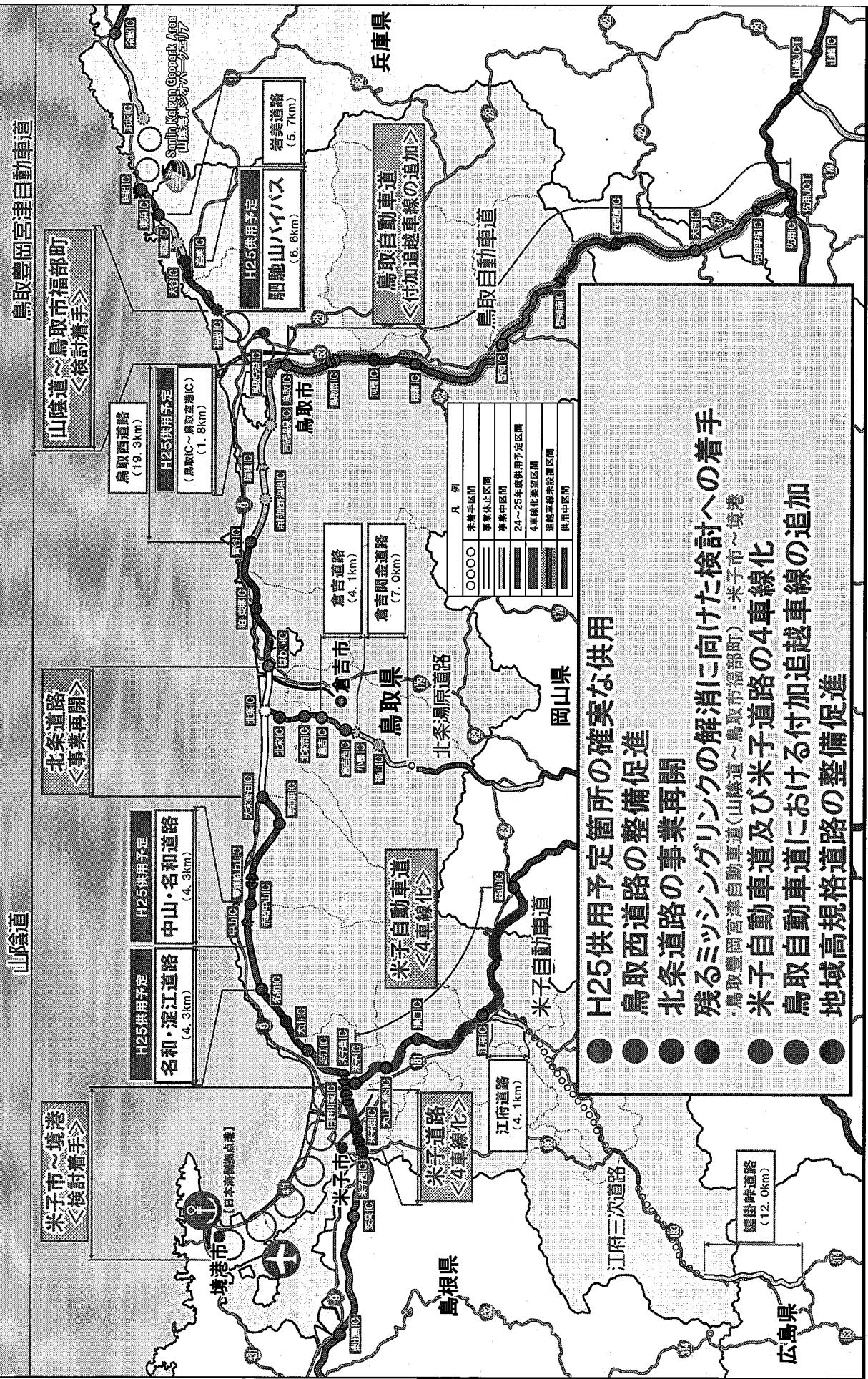
昨年、京都府亀岡市をはじめとして全国各地で発生した痛ましい通学児童の死亡事故を教訓に、全国的に小学校の通学路について緊急点検が行われたところであり、鳥取県では県管理道路における全ての要対策箇所(169箇所)の安全対策を集中的に平成26年度までに実施することとしている。

については、

- 早期に通学路の安全が確保されるよう、緊急点検に伴う通学路安全対策に必要な予算を確保すること。

世界
西文

県内高速道路ネットワークの1日も早い連結を!

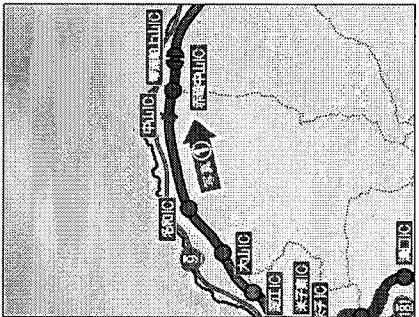
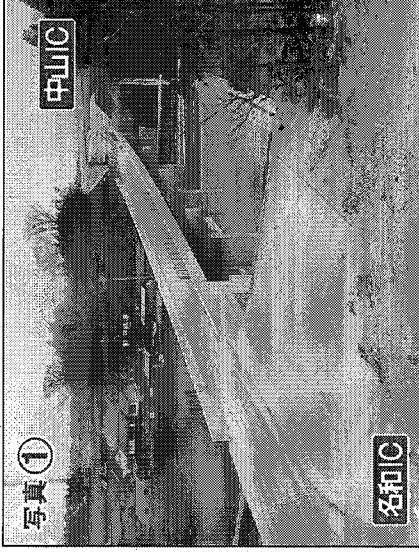


要

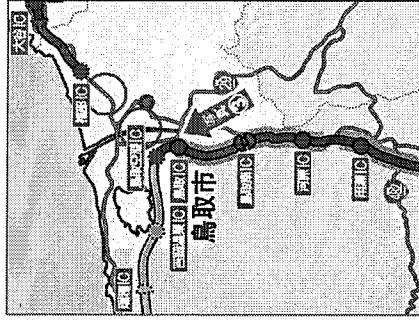
県内高速道路ネットワークの1日も早い連結を!

山陰道

平成25年度供用に向けて整備が進む名和・淀江道路



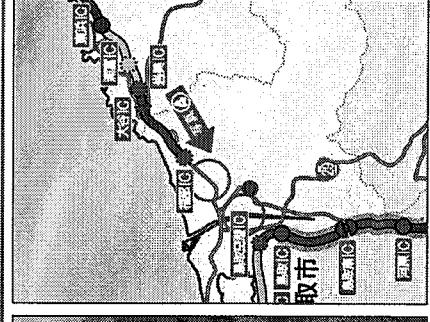
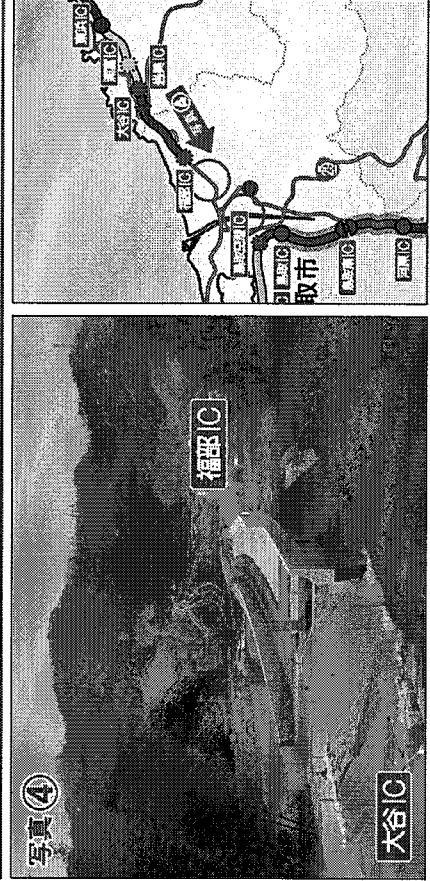
平成25年度供用に向けて整備が進む鳥取西道路(鳥取IC~鳥取空港)



平成19年度以降事業が中断している北条道路

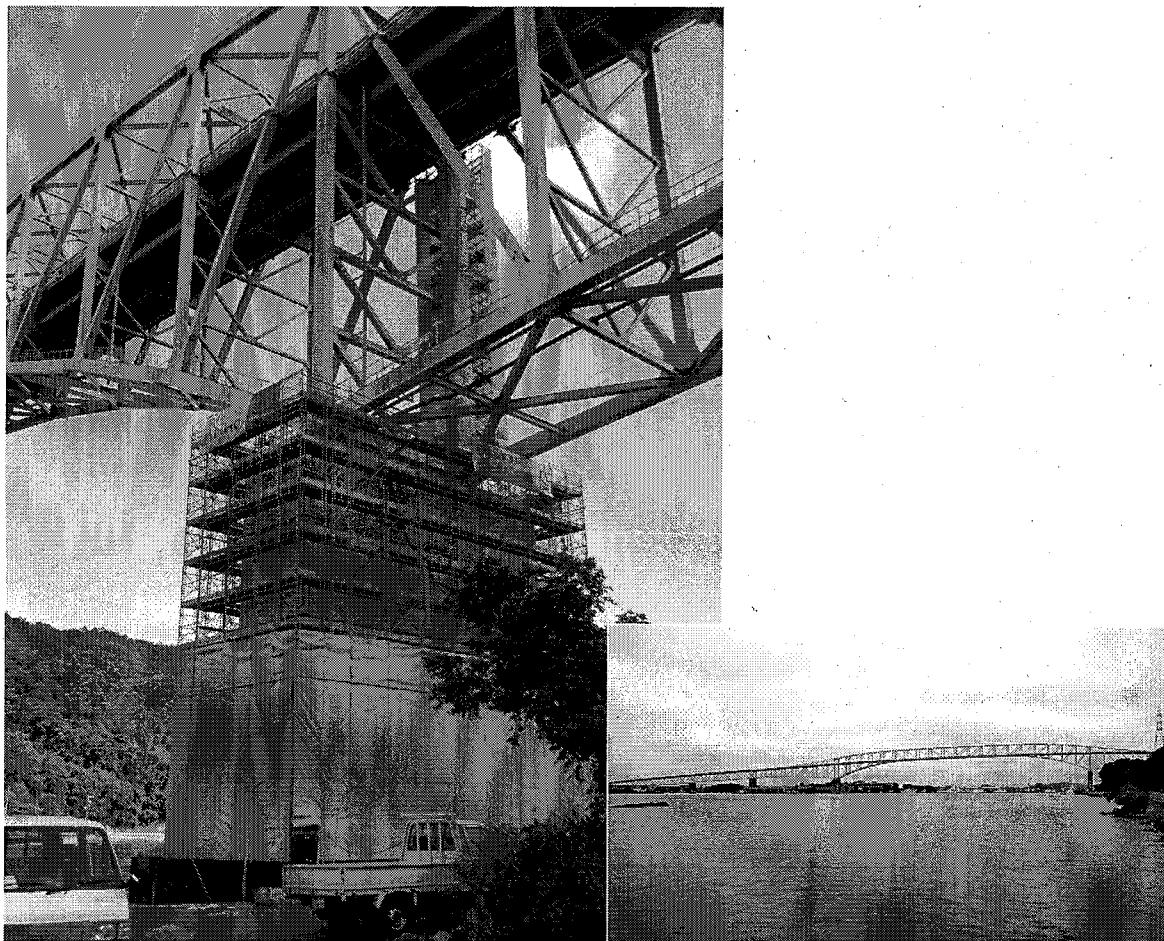


平成25年度供用に向けて整備が進む豊岡宮津自動車道



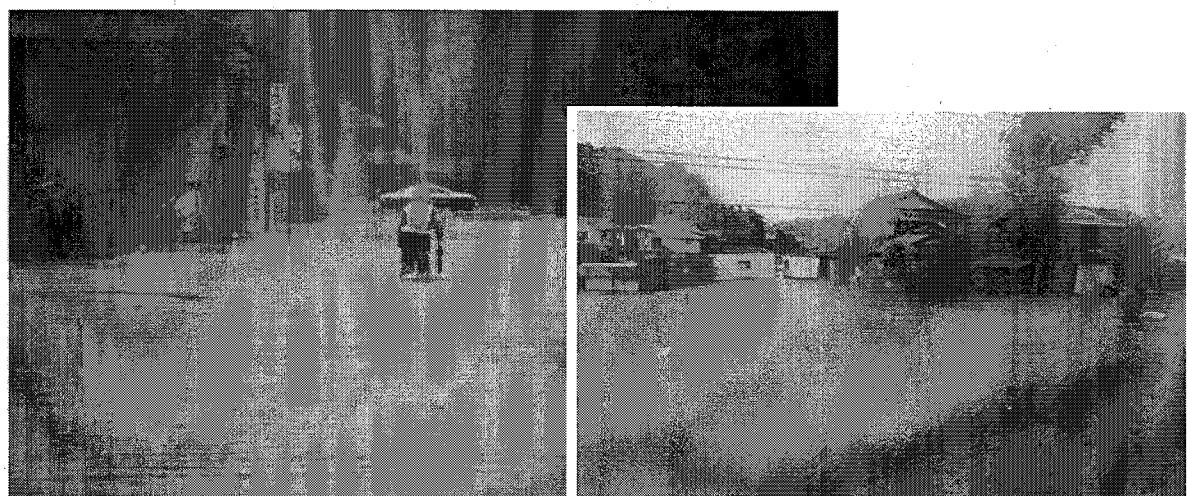
○橋梁の耐震補強(境水道大橋(国道431号)

島根半島と弓ヶ浜半島を結ぶ延長約700mの長大橋梁で、大規模地震等の災害発生時における物資の緊急輸送道路、避難路の安全確保のため、平成26年度完了を目指し耐震補強工事を実施中。

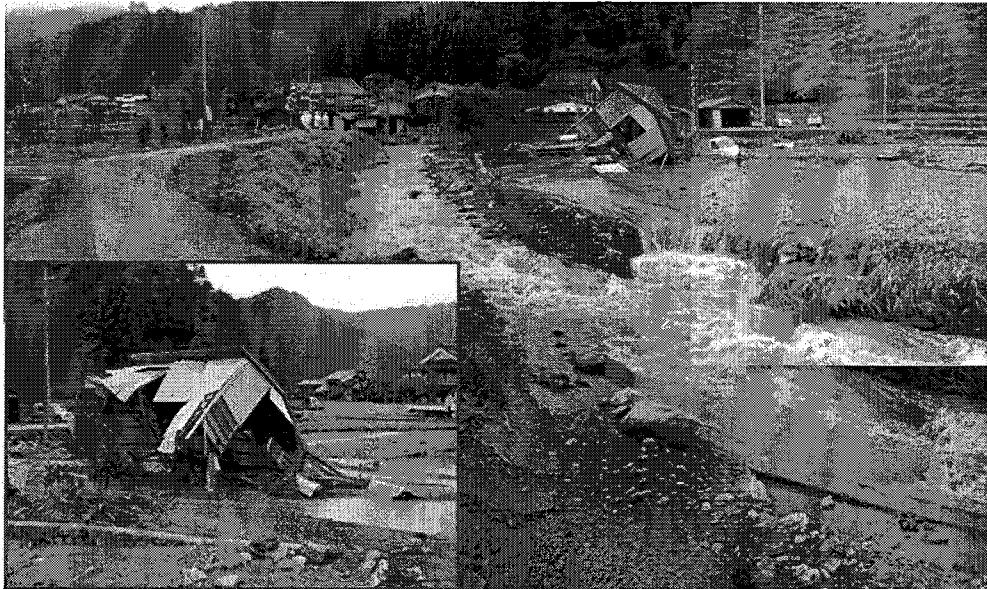


○平成23年台風12号で浸水被害が発生(青木箇所)

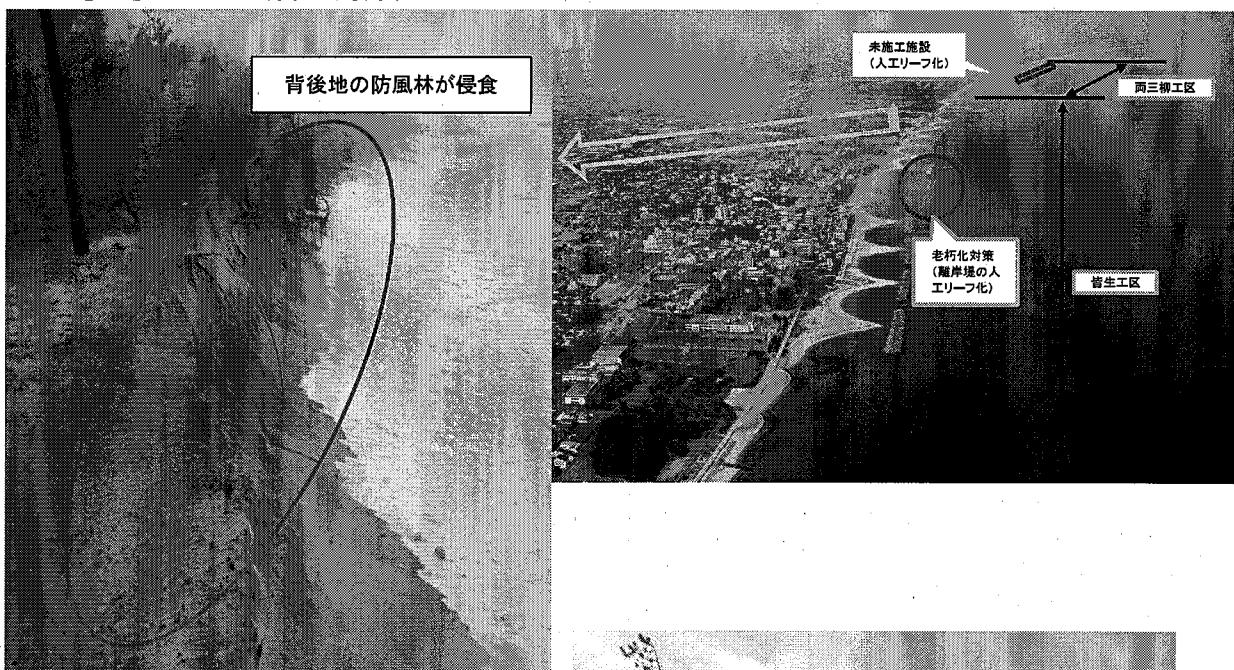
法勝寺川本線の水位上昇の影響で県管理の小松谷川沿いの青木地区で浸水被害が発生。(床上4戸、床下40戸) 県道の通行止めにより集落が孤立。



○前線の影響による局地的な集中豪雨によって土石流が発生(平成19年8月 若桜町 角谷川)



○冬期風浪等で防風林が侵食されており、背後地の宅地、道路等が消失の脅威にさらされている(皆生海岸)



○平成23年の台風12号等により遊歩道が被災(陸上海岸)



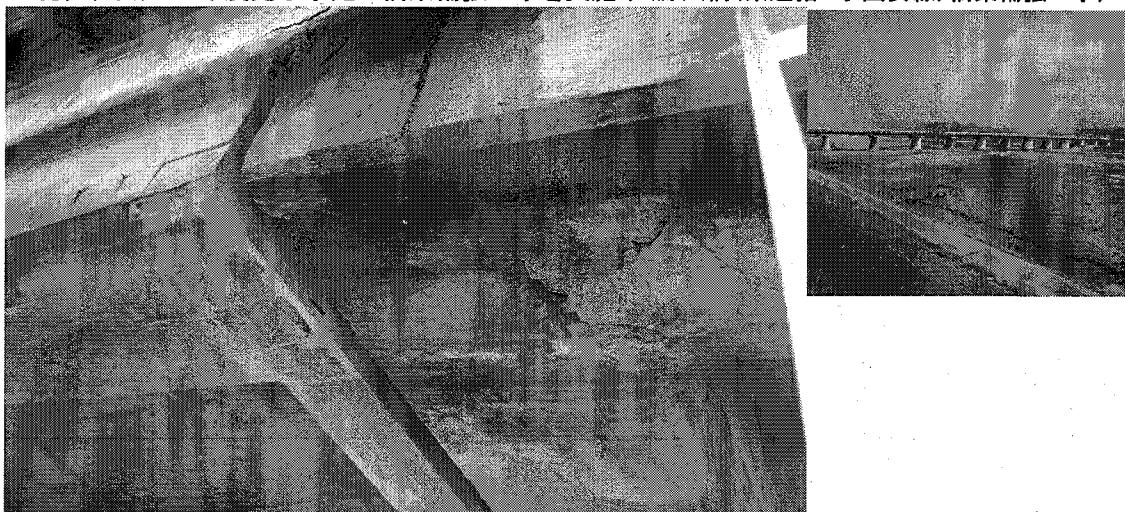
《鳥取県内の社会資本の老朽化状況》

施設名		施設数	建設後50年が経過する施設数	
			現在	20年後
道路施設	橋梁(橋長15m以上)	700	(12%) 83	(54%) 379
	トンネル	37	(5%) 2	(38%) 14
河川施設	水門・樋門・堰(幅4m以上)	35	(0%) 0	(37%) 13
港湾施設	岸壁・防波堤・橋梁等	241	(10%) 23	(43%) 104

※県が管理するトンネルや橋梁など多くの社会資本の老朽化が進み、今後、維持管理に要する費用が増大する。

○老朽化により、コンクリート面が剥離し、鉄筋が露出している橋梁

現在、平成26年度完了予定で橋梁補強工事を実施中(源太橋(県道猪ノ子国安線)橋梁補強工事)



○コンクリートひび割れ、樋門本体の剥離が進行している樋門(湖山水門)



○矢板式護岸の腐食による陥没(境港)

観光スポットである夢みなとタワー周辺の緑地護岸の矢板が老朽化に伴い腐食し、緑地の通路部分に陥没が多数発生しており、来訪者の転落事故の危険性が高い。



○通学路の安全対策

歩道のない1車線の区間で、児童・生徒が通学する時間帯は通勤自動車の交通量が多く、特に踏切部分は車道幅も狭隘で危険なため、歩道設置と踏切拡幅の安全対策が必要。

